

# 横芝の碑

(その一〇一)

## 中台円福寺の経塔?と

### 寒念仏記念の力石!

中台の円福寺には、郷土出身の教育者顕彰碑や句碑等も建っていて、地元の人々の心の寄り処となっているばかりでなく、念仏講其他地元の会合等にも利用され、親しみと尊崇を集めています。

を見ますと、少くとも三二〇年以前であることを確かです。

### 土中に沈んだ経塔?

開基は詳かではありませんが、境内に点在する墓石や供養塔に刻まれている、寛文(一六六一―七七三)延宝(一六七三―八一)等の年号

この中、寛文年間のものというのは、経塔の上部と思われる石塔で、下の方は土の中に沈んだ形で見えますが、梵字其他も見当



【草群にただずむ石塔】写真①

らず、ただ寛文十一年×月×とだけ読みとれます。×印は判読不能で、その下は土中に埋まっています。どうも不自然な形に思われます。地震等で倒れた経塔を復旧する時、経文の刻まれた部分の石を載せ忘れたのか、重くて持上げられず、そのままになってしまったのかも知れません。あるいは、寛文十一年といいますが、島原の乱(天草四郎時貞等キリスト教徒の反乱)後に徳川幕府がキリスト教禁宗のため宗門改めの掟を一般に布告したのが寛文四年で、それから僅か七年後のことですから、何か経文の刻銘の中に、幕府の心証を害す恐れのある文字等が見受けられたので、土中に埋めるとか、打毀したことも考えられます。

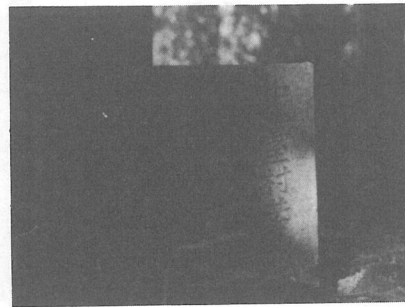
しかし、寛文年間の経塔といいますが、それ以前のもので、これだけの形を整えたものは、ここ以外に横芝町では見かけません。もし、何かの事情で本体と別々になっているかもしれない、経文を刻んだ石が存在するのでしたらば、ぜひ元の姿に組立て、寛文十一年の経塔を出現させたいものです。

## 寒念仏と

### 力石?

この寺には、更に珍らしい寒念仏成就の記念石が保存されています。

【まったく古さを感じさせない力石、当時の若衆が力くらべをしたのか……】写真②



す。地元の古老は力石と呼んではいますが、巾40cm四方、厚さ25cmほどの相当重い石で、寒念仏成就、中台村若衆、享保十三年十二月と刻まれています。それが三個も保存されているのです。

寒念仏という項を広辞苑で見ますと、寒三十日間、山野に出て声高に念仏を唱えること。後には、寒夜に鉦をうちたたいて仏寺に詣で、または付近を遊行することになった」とあります。寒中といいますが、立春の前約一か月、というのが現代の常識ですから、十二月に寒念仏が成就した、というのは少し変な様に思われますが、当時の暦は大陽暦でなく、陰暦を用いていたのですから、一か月の遅れは当然な筈です。この石に刻まれた文字も暦の今昔を物語っている

ると言える訳です。それにしても、寒念仏成就の記念の石を、同じ年に三個も刻んだのでしょうか、八代將軍吉宗の享保の改革が次第に進展して、諸事節約が中台村にまで浸透し、村の若衆が極寒の念仏訓練を完遂して、その記念に力石を作り、各々の体力と力業を競って楽しんだのであろう等と考えて見るのも、案外当たっているかも知れません。

○写真①は、経塔と思われる石塔で、草群に囲まれてたえずむ姿は何となく、夏草や兵共が夢の跡の句が思い出されます。写真②は、昔の若衆が力を比べ合ったであろう寒念仏記念の力石、楷書で刻まれた中台村若衆等という文字は、二五〇年の歳月は全く感じられない鮮明さです。(この場所は、その五十八、伊藤融先生の項でご案内申上げてありますので、案内略図は割愛させて頂きました)

横芝町文化財審議会委員  
小沢春光氏寄稿

